

平成三十一年度
玉東中学校便り 第4号
 文責 田河
希望の虹
 平成三十年六月十五日



心のコップの話



一年生に対して、これまでに体験入学と入学式の時二度「心のコップ」という話をしました。心のコップとは、人が様々なことを学ぶ時に学んだことを入れる容器のことです。心のコップがひっくり返ったり、底にひびが入っていたり、蓋がかぶっていたりすると学んだことは全然蓄積していきません。先生方がどれだけ一所懸命に教えようと努力しても、授業を工夫しても心に響かず、効果は上がっていかないのです。しかし、この心のコップが上向きになり、学ぶ準備さえ整えられると、飛躍的に状態は向上します。ここ数年の本校の目覚ましい飛躍の基盤はまさにこのことにあります。

国民教育の父と言われた森信三氏は心のコップを上向きにするための要諦として「人より早くあいさつをする」「大きなはつきりした返事をする」「靴のかかとを揃える」を挙げられました。玉東中の生徒が見てもこれらのことが実践できていると評価していただけるようにみんなで努力しているところです。

教育実習生の受入れ

教育実習生として本校平成二十三年度の卒業生「児玉夏姫」さんが、五月二〇日～六月八日までの三週間勉強されました。現在ルーテル大の四年生ということで、将来は小学校の先生になりたいとのことでした。頑張ってください。



避難訓練

先日、地震発生を想定した避難訓練を実施しました。あいにくの雨天で避難する場所を急遽体育館に変更しました。指導の中で担当から「おかしもち」の説明があり生徒は真剣に学んでいました。お「押さない」か「駆けない」「しゃべらない」「も「戻らない」「ち「近寄らない」です。

「備えあれば憂いなし」

民生児童委員訪問

今年も十六名の民生児童委員の皆さんが来校されました。今年には授業参観、経営概要説明の後、生徒と共に給食を食べていただきました。日頃から民生児童委員の方々にはたいへんお世話になっております。

意見交換の場では皆さんからは本校の生徒の様子について概ね評価の言葉をいただきました。訪問ありがとうございました。



雑感

中間テストが本日終了しました。一年生にとっては初めての定期テストでした。この後、中学校生活の中で幾度となくテストを受けていくこととなります。テストで最も大切なことは、解けなかったり間違ったりした問題をそのままにせず、やり直すことです。つまりどれだけ力として定着したかを見るためのものなのですから、テストの後の取組こそが重要です。

さて、中間テストが終了し、今度は中体連大会がやってきます。三年生にとってはこれまでの部活動の集大成です。悔いが残らないよう全ての力を出し切ってください。そして中体連では忘れてはならないことが「スポーツマンシップ」です。最近スポーツマンシップのかけらもない大学スポーツの出来事が話題に挙がっています。玉東中生には勝ちにこだわりつつも、相手や審判、ルールを尊重するスポーツマンシップに則った健闘を大いに期待します。

心の栄養となる言葉⑭

「人間は学校で教わることは、ちよつと基礎工事にあたります。その上に各人が独特の建物を建てねばなりません。その建物のうち、柱は教えであって壁土は経験です。」

森信三(思想家・教育者)

(修身教授録 一日一言 致知出版社より)